

スポーツモデル「Ninja」シリーズの250ccバイク「Ninja 250」を新発売

川崎重工は、スポーツモデル「Ninja」シリーズの250ccバイク「Ninja 250」と、特別色を施した「Ninja 250 Special Edition」を2月1日に、またABSを標準装備した「Ninja 250 ABS Special Edition」を2月15日に新発売する。

今回新発売する「Ninja 250」は、積極的にスポーツライディングを楽しみたいアクティブなライダーの要望に応えた、オールラウンドなスポーツモデルである。高い剛性を持つダイヤモンド構造の交換フレームを採用し、優れた走行性能と扱いやすさを実現。エンジンは、軽量・コンパクトな水冷4ストローク並列2気筒DOHCバルブエンジン(248cm³)を搭載し、低中速回転域の力強さと高速回転域でのシャープさを両立させた。フューエルインジェクションと三元触媒の採用で、2007年国内二輪車排出ガス規

制に適合する高い環境性能を有している。また、「Ninja」シリーズ特有のアグレッシブな外観に加え、車体細部に至る上質な造り込みにより従来の250ccクラスを超えた所有感を追求している。

■「Ninja 250」の主要諸元

- 全長・全幅・全高：2,020×715×1,110(mm)
- シート高：785mm
- エンジン形式／弁方式：水冷4ストローク並列2気筒／DOHC4バルブ
- 総排気量：248cm³
- 最高出力：23kW(31PS)／11,000rpm
- 点火方式：電子進角式トランジスタ



お問い合わせ先

(株)カワサキモーターズジャパン
お客様相談室 ☎0120-400-819

超微粉除去が可能な微粉分級機「ファインセクターθ(シータ)」を新発売

川崎重工グループのアーステクニカは、超微粉除去が可能な微粉分級機「ファインセクターθ(シータ)」を新発売した。

「ファインセクターθ」は、高い粉砕性能と粒度調整の容易さで好評を得ているジェットミル(微粉砕機)「JEDI(ジェディ)」に内蔵している回転分級技術を応用したもので、すでにラインナップしている粗粉分級機「ファインセクター」のシリーズ化となる。

本機は、独自開発の回転分級機構と分散機構により、分級が困難な1~3μm(1μmは100万分の1m)以下の超微粉を精度よく効率

的に除去できるので、高機能化するカーボンナノから電池材料まで各種機能性粉体の高性能化に寄与する。

特長として、ジェットミル「JEDI」の回転分級技術をさらに進化させた特殊形状の分級ロータを搭載、分級ロータにアーステクニカ独自の技術である分散翼の採用により高度な分級が可能、分級が困難とされるサブミクロン領域(1~3μm)の分級が可能、分級ロータの回転数を変えることで分級点を容易にコントロール可能、ロータ開閉機構でメンテナンスが容易である、などがあげられる。



ベトナムの油田開発に用いられるFPSO向け「天然ガス圧縮機」を受注

川崎重工は、ラムソン合弁会社がベトナムでの油田開発プロジェクトに投入する浮体式生産貯蔵積出設備(FPSO)向けに、「天然ガス圧縮機」を2基受注した。

FPSOは洋上で、海底油田で採取された石油から不純物を取り除いて原油を生産・貯蔵し、輸送タンカーへの積み出しを直接行う浮体式設備で、従来の固定式プラットフォームに比べて水深が制約にならないことや、移動・再利用が容易といった利点がある。本FPSOは、既存のタンカーを改造するもので、ブンタウ沖160kmに位置するタンロン鉞区およびドンド鉞

区の開発プロジェクトにおいて原油の生産・貯蔵・積出を行なう。

受注した「天然ガス圧縮機」は、原油生産過程で石油から分離された随伴ガスをFPSOで昇圧し、海底パイプラインで陸地へ圧送するためのもので、FPSOのトップサイド(石油・ガス生産設備)を建設するシンガポールのグローバル・プロセス・システムズ(GPS)社から受注した。GPS社への納入予定は2013年4月で、FPSOの商業運転開始は2013年第4四半期の予定。

※写真は今回受注した圧縮機と同タイプの圧縮機です。



東京ガス向けに世界最大級の地上式LNGタンクを受注

川崎重工は、清水建設(株)と共同で、東京ガス・エンジニアリング(株)(東京ガスの100%子会社)から、東京ガス日立LNG基地向け地上式LNG(液化天然ガス)タンク(容量:23万KL)1基および地上式LPG(液化石油ガス)タンク(容量:5万KL)1基の建設工事を受注した。受注した地上式LNGタンクはPC(プレストレ

ストコンクリート)防液堤外槽一体型で、容量23万KLは地上式LNGタンクとしては世界最大級である。

東京ガス日立LNG基地は茨城県日立市の茨城港日立港区内に位置し、天然ガスの需要増加に対応して製造・供給インフラの柱のひとつとするとともに、東京湾内の既存3基地と連

携することで、供給インフラ全体の安定性の向上を図る目的で整備される。

本基地は、2015年度内の稼働開始を目指している。



防衛省向けP-1固定翼哨戒機の量産初号機が初飛行に成功

川崎重工は9月25日、岐阜工場(岐阜県各務原市)において、P-1固定翼哨戒機の量産初号機の初飛行に成功した。この量産初号機は、岐阜工場に隣接する航空自衛隊岐阜基地を離陸し、約2時間半の飛行を行なった後、無事に着陸した。

初飛行に成功したP-1固定翼哨戒機は、海上自衛隊の現有機P-3Cの後継機である。防衛省が次期輸送機(XC-2)とともに2001年

度より2機種同時開発を進めているもので、川崎重工は主担当企業として協力企業をはじめとする開発参画企業とともに開発作業を進める一方、2008年度にP-1固定翼哨戒機の量産初回契約を受注し、量産機の設計、製造作業を進めている。今後は、岐阜工場において引き続き飛行試験を実施し、防衛省への2012年度納入に向けて総力を挙げて取り組んでいく。

東京モノレール向け「鉄道システム用地上蓄電設備」を受注

川崎重工は、東京モノレール(株)から世界で初めて、非常時走行を目的とした「鉄道システム用地上蓄電設備」(Battery Power System、以下BPS)を受注した。

受注したBPSは、川崎重工が開発した大容量ニッケル水素電池「ギガセル」*40モジュールで構成される2並列のシステムで、3月に品川変電所に設置される。引き続き2013年度中に多摩川変電所に設置される予定で、この2変電所へのBPS設置により、停電などで電車が

駅間に停車しても最寄り駅へスムーズに移動させることができ、乗客を安全に退避させることができる。

東京モノレールでは、2011年3月に発生した東日本大震災を契機に、電力会社からの電力供給が止まって電車が駅間に停止した非常時の、乗客の安全性確保の方策を検討してきた。川崎重工は、回生電力を効果的に蓄電・貯蔵できるBPSを用いて、電車を最寄り駅に移動させる非常時走行を提案。今回の受注に先駆け

て東京モノレールと勝島変電所でBPSの実証試験を行ない、BPSの非常時走行を確認した。

BPSを構成する「ギガセル」は、高速充放電が可能で負荷応答性が高く、安全性に優れたニッケル水素電池である。チョップ装置などの電力変換装置なしで架線と直結できるため、設備の低コスト化および小型化を実現できる。

※「ギガセル」は川崎重工の登録商標です。

高速ピッキングロボット“picKstar”「YS02N」を新発売

川崎重工は、高速ピッキングロボット“picKstar”の新機種「YS02N」を新発売した。

「YS02N」は、好評を得ているデルタ型パレルリンクロボット「YS03N」の設置面積およびアーム寸法を小型化したもので、食品や薬品、化粧品などの製造ラインのみならず、電子関連機器まで幅広い用途に対応できる高速ピッキングロボットである。小型でありながら広範囲での高速動作が可能で、高速・連続搬送、袋物の搬送など幅広い適用用途に対応する。

特長は、コンパクト・省スペース化の実現で複数のロボットを高密度に配置できる、本体重

量を60kgと大幅に軽量化したため片持ち架台への据え付けも可能、コンパクトなロボット本体ながら直径600mmの広い動作範囲を有し、最大200サイクル/分の高い処理能力を実現(上下25mm、水平305mm、負荷0.5kgの場合)、手首トルクが高いのでさまざまなツールを手首先端部に取り付けて幅広く使用できる、メンテナンス性にも優れているなど。

コントローラは、新開発の小型コントローラ「E94」の採用で狭い空間への設置が可能である。従来より好評の「ビジョンシステム」も利用できるため、用途が一層広がる。



「東京本社」と「東京事務所(プラント・環境部門)」を移転し、集約

川崎重工は2012年12月に、東京本社および東京事務所(プラント・環境部門)を新東京本社に移転・集約しました。これを機会に、2012年4月に発足した「マーケティング本部」を中心として、川崎重工における知的資産の共有化を促進し、国内外の市場創造に向けた総合的活動の強化に取り組んでまいります。

●新住所：東京都港区海岸一丁目14番5号

●事業所名称：東京本社

●発足日：2012年12月1日

※川崎重工は「東京本社」「神戸本社」の2本社体制を敷いています。

